



事業用や営業用として
1日あたり **10³m³** 以上の
地下水を利用される方は
届出をお願いします。



地下水をまもるための 条例をご存じですか？

うきは市は、市民の生活や事業活動に必要な水の

100%を地下水でまかなっています。

その水は、うきはの動植物をはぐくむ環境をつくり、
歴史的にもこの土地ならではの文化や産業を発展させてきました。

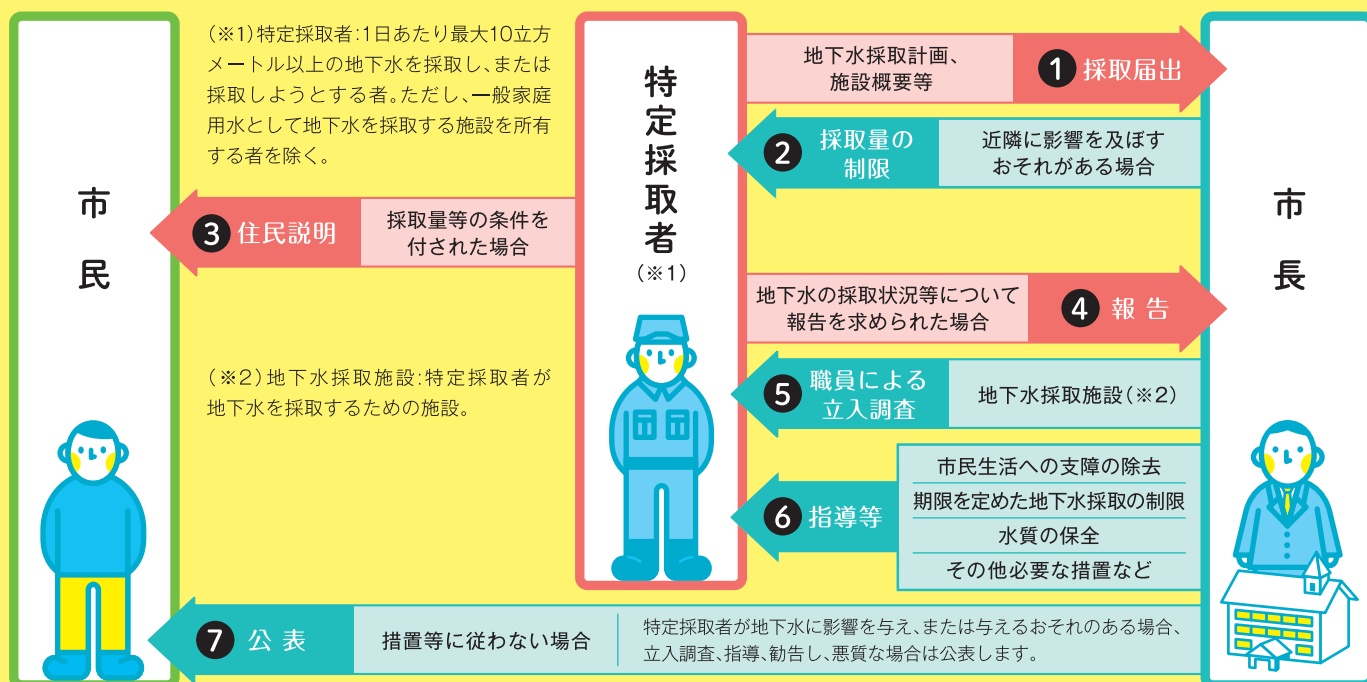
市民の暮らしと地域経済、どちらにも欠かすことのできない
大切な公共の財産、地下水。その恩恵を将来も受け続けるため、

うきは市は、平成27年に地下水の採取に関して
条例を定め、保全に取り組んでいます。

写真:名水百選に認定されている浮羽町山北の「清水湧水」

地下水をまもる = 暮らしをまもる うきは市地下水の保全に関する条例

市民、事業者の方は、地下水の保全にみずから取り組むとともに
市が行う地下水の保全に関する施策にご協力をお願いします。



地下水の現状をご存じですか？

うきは市では、よりよい地下水の保全と活用のための対策を検討するため、平成28年度より3ヶ年にわたって、地下水に関する調査を進めてきました。



地下水の特徴

うきはの地下水は、「Aso-4」(阿蘇火砕流堆積物)と呼ばれる地層を境に、上下ふたつの帯水層^{たいすいそう}があることがわかりました。私たちの暮らしに使う水は、主に浅い帯水層^{たいすいそう}(第一帯水層)から汲みあげられています。また、夏期には降水や水田^{かんやうりよう}などを通して地下にしみこむ水の量(涵養量)が格段に多くなり、地下水位が冬期に比べて約1~2m高くなります。その影響で、地下水位が筑後川の河川水位よりも高くなり、地下水は北西向きに流れる傾向にあります。地下水が地中に留まっている時間は地域ごとに異なりますが、平地で20~35年、山地部で50年前後、最長で約63年という結果が出ました。

地下水位

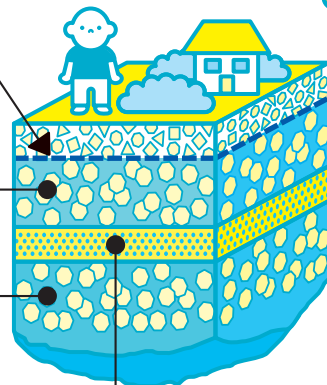
地下水の水面

第一帯水層^{たいすいそう}

主に生活用水として揚水

第二帯水層^{たいすいそう}

主に工業・営業用水として揚水



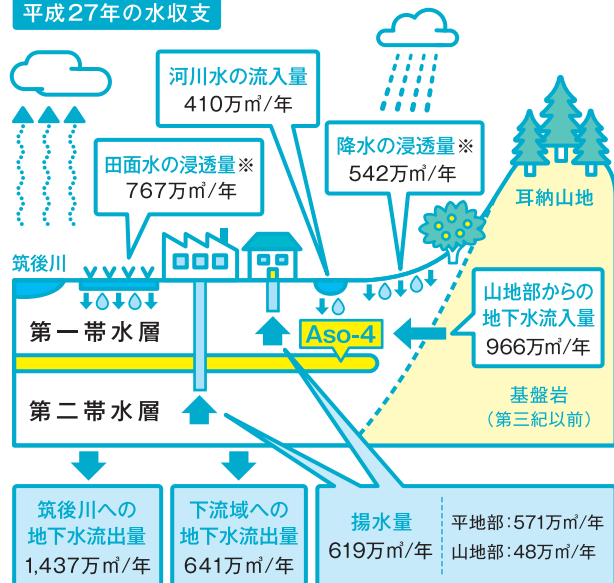
Aso-4

約9万年前の阿蘇山爆発でたまった火砕流堆積物の層

地下水の収支と適正揚水量

地下水は、もともとは雨です。雨が土にしみこみ、地中を流れていった水はやがて筑後川や海へたどり着き、蒸発して雲をつくり、ふたたび雨となって大地を潤します。

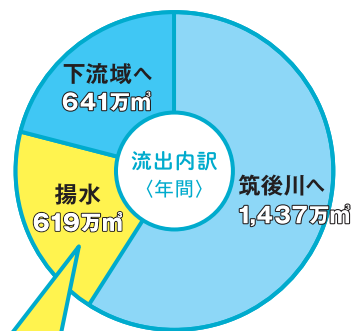
平成27年の水収支



※田面水の浸透は、かんがい期の水田からのかんがい水と降水の浸透を、降水の浸透は、非かんがい期の水田と全期間の水田以外の土地からの降水の浸透を意味します。

地下水の流出内訳

地下水流出の約4分の1が市民の暮らしと地域経済のために利用されており、残りが筑後川や下流域へ流出しています。



揚水量とその用途

生活用

40%

(256万 m^3 /年)



工業・営業用

40%

(239万 m^3 /年)



農業用※

20%

(124万 m^3 /年)



※地下水の農業用水利用は、畑・果樹園のみで計算しています。

うきは市平地部の適正な揚水量(利用可能量)は
年間で**1,288万 m^3** と推計されました

天然資源である地下水は、収支のバランスが崩れると枯渇するおそれがあります。
今後も持続的な地下水の利用を行っていくためには、適正な利用が求められています。

条例にもとづいた適正な地下水利用にご協力ください